3章 概略検討

3-1 ケース1: No13 木地屋川

1. 概要

上流にある堰堤に取水施設、沈砂池等を設置し、その地点から水圧管路を約 300m布設し、下流の堰堤付近で発電することを計画する。

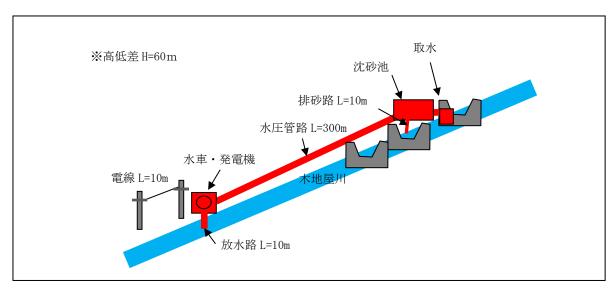


図 3.1 発電所イメージ図

2. 取水イメージ

水の落ち口に取水口 (バースクリーン) を設置して水を取水し、取水した水を沈砂池に導水路で横引き、 沈砂池に貯まった水を水圧管路で下流の発電所まで送水する。



図 3.2 取水口のイメージ図

3. 発電量の計算

検討した条件を基に、発電出力、年間発電量を再計算する。

表 3.1 発電出力、年間発電量

名称	内容	摘要
1回目Q:流量 (m3/s)	0.53 (m3/s)	8/19 の流量(仮に設定)
H:落差 (m)	54.6 (m)	
P:出力 (kW)	212.7 (kW) ⇒199 (kW) (200kW 以上だと、売電金額が 34 円から 29 円に下がるため、199kW とする)	9.8×Q×H×0.75 (水車・発電効率)
年間発電量(kWh)	1,045,944 (kWh)	P×8,760 時間×0.6 (施設稼働率)
年間売電金額 (円)	35, 562, 000(円・税抜)	年間発電量×34円

4. 概略検討のまとめ

概略検討の結果を表3.2にまとめる。

表 3.2 まとめ

	我 5. 2	
項目	内容	評価
流量、発電、 施工面	 ・流量 0.53m3/s、落差 54.6m確保できるため、発電出力は約 199kW 見込める。ただし、水量は多いわけではないため、1 年間の流量観測を実施し、年間流量を見極める必要がある。 ・施工面としては、取水口付近まで工事車両が入ることができ、施工しやすい環境にある。 ・取水口付近に大きな石があり、落石等の対策が必要になる。 ・圧力管路の布設位置は舗装部分ではないため、土木工事費を安価にすることができる。 	0
経済性	・建設費は約2.1億円で、kW建設費は107万円となる。 ・収支シュミレーションにおいて、11年目で黒字化する。	0
水利権	・普通河川のため、水利権の権利関係はない。ただし、砂防指定地なので、 工事前に新潟県に行為許可等の申請を提出する必要がある。 ・減水区間は約300mとなる。	0
系統連系	・「系統連系の制限あり」となっている。対策工事等を行うことで対応は可能となるが、上位系統の対策工事が発生する。工事費用については、東北電力㈱に接続検討依頼(費用 21.6 万円)を行い、算定してもらうことになるが、現段階では想定がつかない。この付近は電力需要も小さく、大きな送電量を予定していない地域のことである。	
アピール性	・集落付近で発電できるため、アピール性はある。	0
総合評価	・距離 300mで 54.6mの落差が確保できるように、勾配が大きくとれる河川のため、工事費は安価に抑えることが可能である。ただし、「系統連系の制限あり」となっているため、追加工事が必要になり、採算性が悪化する可能性がある。 ・実施にあたる前に、東北電力㈱に接続検討依頼を行い、事業化の有無を判断する必要がある。	

3-2 ケース2:No15 焼山川

1. 概要

上流にある砂防堰堤に取水施設、沈砂池等を設置し、その地点から水圧管路を約 600m布設し、下流の砂防堰堤付近で発電することを計画する。

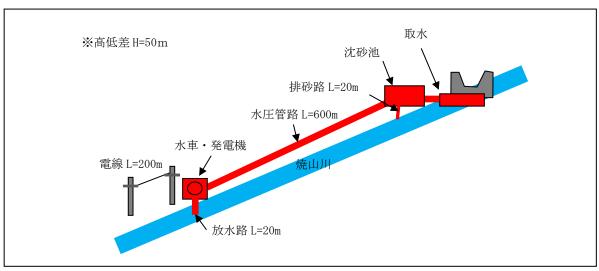


図3.3 発電所イメージ図

2. 取水イメージ

水の落ち口に取水口(バースクリーン)を設置して水を取水し、取水した水を沈砂池に導水路で横引き、 沈砂池に貯まった水を水圧管路で下流の発電所まで送水する。



図 3.4 取水口のイメージ図

3. 発電量の計算

検討した条件を基に、発電出力、年間発電量を再計算する。

表 3.3 発電出力、年間発電量

名称	内容	摘要
平均Q:流量 (m3/s)	2.93 (m3/s)	2回の平均流量
H:落差 (m)	42.2 (m)	
P:出力(kW)	945 (kW)	9.8×Q×H×0.78 (水車・発電効率)
年間発電量 (kWh)	4, 966, 920 (kWh)	P×8,760 時間×0.6 (施設稼働率)
年間売電金額 (円)	144,040,000(円・税抜)	年間発電量×29円

4. 概略検討のまとめ

概略検討の結果を表3.4にまとめる。

表 3.4 まとめ

	表 3.4 まとめ	
項目	内容	評価
流量、発電、 施工面	 ・流量 2.93m3/s、落差 42.2m確保できるため、発電出力は約 945kW 見込める。 ・施工面としては、取水口付近まで工事車両が入ることができ、施工しやすい環境にある。 ・取水地点で沈砂池等を設置し、そこから圧力管で布設することになるが、圧力管の布設位置は管理用道路に布設できるため、土木工事費を安価にすることができる。 ・砂防堰堤直下の副堤部分にスペースがあるため、取水口、沈砂池等を設置することが可能である。 ・取水口付近に大きな石があり、落石等の対策が必要になる。 	0
経済性	・建設費は約7.5億円で、kW建設費は80万円となる。 ・収支シュミレーションにおいて、9年目で黒字化する。	0
水利権	・二級河川のため、新潟県から水利権の許可をとる必要がある。 ・上記の発電出力の計算は、全ての河川水を取水した場合として計算しているが、実際には河川維持流量の確保が求められるため、全ての河川水は利用できない。ただし、下流側の砂防堰堤から下流には発電所があり、最大で約5m3/s 取水しているため、本計画においても現計画の取水は可能と考えられる。 ・減水区間は約600mとなる。	Δ
アピール性	・周辺に集落付近等がないため、アピール性は小さい。	Δ
総合評価	・距離 600mで 42.2mの落差が確保できるように、勾配がとれる河川のため、工事費は安価に抑えることが可能である。また、管理用道路に配管が可能であるため、施工性も悪くない。このため、水利権が取得できれば小水力発電設置の可能性は高い。ただし、堰堤付近に大きな砕石が多く見受けられるため、取水の方法を工夫する必要がある。	0

3-3 ケース3:No20 湯沢川

1. 概要

上流にある砂防堰堤に取水施設、沈砂池等を設置し、その地点から水圧管路を約 100m布設し、道路脇にある小屋付近で発電することを計画する。

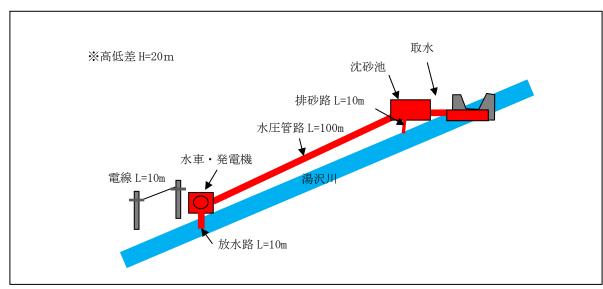


図 3.5 発電所イメージ図

2. 取水イメージ

水の落ち口に取水口(バースクリーン)を設置して水を取水し、取水した水を沈砂池に導水路で横引き、 沈砂池に貯まった水を水圧管路で下流の発電所まで送水する。

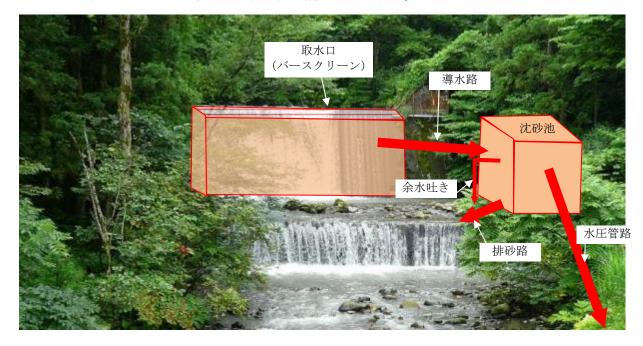


図 3.6 取水口のイメージ図

3. 発電量の計算

検討した条件を基に、発電出力、年間発電量を再計算する。

表 3.5 発電出力、年間発電量

名称	内容	摘要
1回目Q:流量 (m3/s)	0.55 (m3/s)	2回の平均流量(仮に設定)
H:落差 (m)	18.1 (m)	
P: 出力 (kW)	70 (kW)	9.8×Q×H×0.72 (水車・発電効率)
年間発電量(kWh)	367, 920 (kWh)	P×8,760 時間×0.6 (施設稼働率)
年間売電金額 (円)	12,509,000(円・税抜)	年間発電量×34円

4. 概略検討のまとめ

概略検討の結果を表3.6にまとめる。

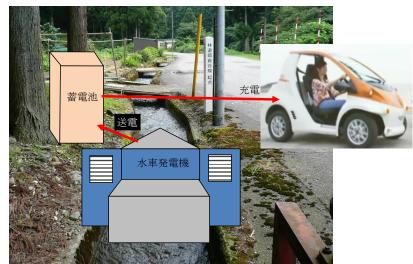
表 3.6 まとめ

	200	
項目	内容	評価
流量、発電、施工面	・流量 0.55m3/s、落差 18.1m確保できるため、発電出力は約70kW 見込める。ただし、発電出力50~100kW の範囲は電気工事費が割高になる。 ・施工面としては、取水地点で沈砂池等を設置し、そこから圧力管で布設することになるが、配管延長は100m程度と短く、工期は短くすることが可能である。	\triangle
経済性	・建設費は約1.5億円で、kW建設費は221万円となる。 ・収支シュミレーションにおいて、20年目内では採算がとれない結果と なった。	Δ
水利権	・普通河川のため、水利権の権利関係はない。ただし、砂防指定地なので、 工事前に新潟県に行為許可等の申請を提出する必要がある。 ・減水区間は約100mとなる。	0
アピール性	・集落内で発電できるため、アピール性はある。	0
総合評価	・経済性の面から小水力発電は難しいと考える。 ・以上のことから、売電を目的とした小水力発電設置の可能性は小さいと 考える。	Δ

3-4 シンボル的な設置の可能性

No.2 高畑 用水路

高畑の用水路については、落差のいらない小水力発電を設置し発電する。周辺に需要施設がないことから、水車発電機の周辺に蓄電池を設け、電気自動車等の電源として使用することが考えられる。



水車タイプ	直置き(クロスフロー水車)
発電出力	3. 1kW $(9.8 \times 0.52 \text{m}3/\text{s} \times 1 \text{m} \times 0.6)$
想定費用	約 1,600 万円(水車発電機 1,000 万円+水路改修等の土木費用 500 万円+蓄電池等 100 万円)
自家消費手法	乗り物(電気自動車、電動車いす等)

No.8 上路 用水路

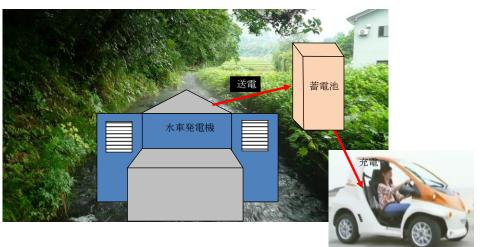
上路の用水路については、直置きタイプか、上流からパイプを這わして発電する方式が考えられる。発電した電気は周辺の小屋に送って使用するか、水車発電機の周辺に蓄電池を設け、電気自動車等の電源として使用することが考えられる。



水車タイプ	直置き (スクリュータイプ水車)、水路式 (クロスフロー水車)
発電出力	0.2kW $(9.8 \times 0.01 \text{m} 3/\text{s} \times 3 \text{m} \times 0.6)$
想定費用	直置き:約1,200万円(水車発電機1,000万円+土木費用100万円+蓄電池等100万円) 水路式:約500万円(水車発電機200万円+土木費用200万円+蓄電池等100万円)
自家消費手法	建物内、乗り物(発電出力が小さいので電動車いす等での利用となる)

No. 14 中川原用水

中川原用水については、落差のいらない小水力発電を設置し発電する。発電した電気は周辺の住宅に送って使用するか、水車発電機の周辺に蓄電池を設け、電気自動車等の電源として使用することが考えられる。



水車タイプ	直置き (クロスフロー水車)
発電出力	2.6kW $(9.8 \times 0.44 \text{m}3/\text{s} \times 1 \text{m} \times 0.6)$
想定費用	約 1,600 万円(水車発電機 1,000 万円+水路改修等の土木費用 500 万円+蓄電池等 100 万円)
自家消費手法	建物内、乗り物(電気自動車、電動車いす等)